有明高専だより

第151号
2017.2

電子情報棟屋上から見た小岱山からの朝日

学生課前の紅葉（12月初旬）

学生会新役員

吹奏楽部第48回定期演奏会

冬季球技大会（ハンドボール）

授業風景（工学基礎Ⅱ）

駐輪場近くのイチョウ（12月初旬）

グラウンドの夜間照明

目次

特集 高橋校長先生にインタビュー ……2・3
シリーズ 卒業を控えて……4・5
シリーズ 人物・いま ……6・7
アラカルト ……8・9
シリーズ 研究室訪問 …… 10
シリーズ 企業訪問 …… 11
ロボコン／プロコン／学生の活躍…… 12
デザコン／冬季球技大会 …… 13
新学生会／学生会役員研修 …… 14
岱明寮だより…… 15
トピックス／編集後記 …… 16

（※本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。
（数字：学年、但し、6・7は専攻科1・2年。M：機械工学科、E：電気工学科、I：電子情報工学科、C：物質工学科、A：建築学科、但し、1・2年生は学年 - 組））

特集 高橋校長先生にインタビュー

平成28年4月に着任された高橋薫校長先生に、約1年間の本校の印象やこれからの構想などを学生会長の田中玲偉さん（4C）、副会長の宮原萌衣さん（4C）、奥園善仁さん（4M）がインタビューしました。

田中・宮原・奥園　最初に自己紹介をします。これから1年間学生会長を務めます４C田中です。副会長の４C宮原です。同じく副会長の４M奥園です。よろしくお願いします。

奥園　校長先生が1年近く有明高専で仕事をされて、本校に対してどのような印象をお持ちですか。

高橋校長先生

校長　一言で言うと、まじめな学校でしょうか。まじめで規律正しい学生、教職員が多いように感じます。

宮原　校長先生は以前仙台高専の先生としてお勤めでしたが、そこと本校とを比べるとどのような違いがありますか。

校長　仙台高専はもともと電波高専だったので、学科には分かれていましたが、学科色がほとんどない学校でした。先生間の壁がなく、交流がしやすく、まとまりやすい学校でした。有明高専には旧５学科があって専門色が強く、学科毎に独立しているような感じがします。学生の転科は仙台高専では容易でしたが、本校では難しいのではないでしょうか。

宮原　本校では隔年で体育祭と文化祭を行っていますが、仙台高専ではどのように実施されていたのですか。

校長　体育祭はなくて毎年文化祭でした。春に球技大会があるだけで、本校では春と冬の２回球技大会が行われていることにびっくりしました。文化祭は活気があって見応えがありました。来年度実施される体育祭には期待しています。

田中　以前校長先生は、本校の学生は他の高専に比べて自主性が薄く、自立心が弱いと言われていましたが、どのようなことからそのように思われるのでしょうか。

校長　登校時、主事室の先生が校門に立っていることに戸惑いを覚えました。また、寮でも朝と夜の２回点呼があって、先生が学生の面倒を多くみているように思えました。逆にみると、学生が先生に頼ることが多いのではないかというふうに理解できます。そうすると自主性や自立心が育ちにくくなるのではないでしょうか。高専生として、学生が自らいろいろなことをできるようになることが望ましいと考えています。

学生に関わる事柄や行事を決めるときには先生だけじゃなく、学生会長や副会長等が参加する機会があってもいいのではないかと思っています。それは、学生のための学校だから、学生の考えを反映することがあってもおかしくないと思います。そうすれば学生は自分たちのことだけでなく、学校のことも考えてくれるようになるのではないでしょうか。そして、学生が学校の運営にある程度参画することで、学生に自主性や自立心が身に付くと思います。

後期から登校時、校門に学生会の諸君が立つようになったことは一歩前進だと思っています。

C 田中君

田中　行事の中で新しいことをしようと思って、学生の意見を取りまとめて、提案した場合、主事室の先生の考えと違っていたら、先生の意見を優先する傾向が強いのが現状です。

校長　学生の意見が正論だったら先生もそれに耳を傾けるべきだと思うので、学生会として主張してもいいと思います。

奥園　話は変わりますが、来年度、校長先生は３Ｉの授業を担当すると聞いています。何か理由があったのでしょうか。

校長　通年科目の「情報論理学」を担当します。校長をしていると学生との接触があまりありません。授業を担当すれば、そのクラスだけかもしれませんが、学生の様子や資質、成績を自分で確認することができます。

また、本校での課題となっている留年する学生が多いことについて、それが学生自身に問題があるのかどうか、試験の難易度が高すぎるのではないのか等、現場に身をおくことで分かることがあるので、授業を担当することにしました。

奥園　授業担当以外で学生に関わる事柄についてお考えがありますか。

校長　学生が自立できるような学校のシステムをつくっていきたいと思っています。例えば、5年生が進路を自分で決めることができるような体制が必要だと感じています。先生の言われるままに就職先を決めるのではなく、学生が自分で自分のことを考えられるような学校になればいいな、と思っています。そのためには教職員全員が従来のやり方に固執せず、改革すべきところは改革する、そのような考えで進んでいって欲しいと願っています。

奥園　学生に対して期待や要望はありますか。

校長　新しいことを実行する際には内部のことだけを見ていてもできるわけではなく、外部との関わりが必要です。だから、学生は外部に目を向けて、外部と関わって欲しいと思います。このことは学生だけでなく、先生に対しても同じで、学会に参加したり、海外での活動を通して新しいことを吸収して欲しいと思います。そうすることによって、学校や学生に還元され、新しいことを遂行する上で重要な力となるはずです。

宮原　私は研修旅行でシンガポールに行きました。現在はとても海外に行きやすくなったと感じています。また、どこか海

校長室でのインタビューの様子

外に行きたいと思っています。今後も多くの学生が海外に行くことができるようになって欲しいと思っています。

校長　今年度海外に出かけた本校の学生が50名以上もいて、九州・沖縄のどの高専よりもだんとつに多く、素晴らしいことだと思っています。これからも多くの学生に海外に出かけて欲しいので、その予算を確保しなければなりません。学生一人に対して10万円の補助をすると宣言しているので、いろいろなところから学校として寄付をお願いしています。

４年生の研修旅行では、現在４Ｃだけが海外に出かけていますが、今後はそのほかの学科も再来年あたりには海外の研修旅行が実施できるよう国際交流室長の山口先生に考えてもらっています。海外の大学生と交流して、海外にある企業を見学して、観光をして、海外を見て欲しいと思います。海外に行くまでは面倒臭がっていても、帰国すると海外に行って良かったとほとんどの学生は言います。

田中　話はまた、ころっと変わりますが、校長先生の趣味は何でしょうか。

校長　仕事が好きで、特に趣味はないけど、若い頃から車を運転することが好きだったので、あえてあげるとドライブでしょうか。若い頃はスキーもやっていました。学生と交流することが楽しく、この前も専攻科２年生からのお誘いがあって楽しい時間を過ごすことができました。

C 宮原さん

宮原　校長先生はどうして高専の先生になろうと思われたのですか。

校長　私は工業高校卒業後、コンピュータの会社に就職してＳＥとして仕事をしていましたが、仕事をし過ぎて体を壊してしまい会社を辞めました。その後、東北大学の技術職員として就職しました。研究室配属で、研究室の教授から「研究をしてみたら」とアドバイスされ、研究の道に進み、15年要して学位を取得することができました。

それから民間の会社に３年間程就職し、仙台高専の校長からのお話があって高専の教員になりました。４年前に高専機構本部に異動し、昨年の４月有明高専の校長として着任しました。一貫して情報系、コンピュータ系の仕事をしていたので高専の先生になることができたと思っています。そして、良き恩師に出会えたことで高専の先生になることができたと思っています。

田中　これから学生会長として学生会のメンバーを動かす立場になりますが、校長先生が先生方に指示を出す際に心がけていることはありますか。

M 奥園君

校長　信頼できる先生の意見を参考にしながら私自身が良いと思ったことを先生方へしっかりと指示を出していると思います。その際には明確に出すことを心がけています。

田中　これからの学生会に何を望まれますか。

校長　それは一つに尽きます。首脳陣にはリーダーシップをとって欲しいということです。行事等が失敗に終わったら、会長・副会長が責任を取る立場にあるわけですから、そういう気持ちをもって、学生会のメンバーに指示を出し、学生全体に指示が行き渡るようにしなければいけないと思います。また、ぶれないことが大切です。ぶれてしまうと、ぐちゃぐちゃになって、信頼されなくなってしまいます。

田中　その他には何かありますか。

校長　学生が学校に望むことを発言する機会をつくって欲しいと思っています。校長との話し合い、主事の先生との話し合いを、学生会として、コースとして、学年として、あるいは、クラスとして等、様々な単位で実現するように考えて欲しいです。

学生が考えていることを先生方が聞くことが大事だと思っています。無理なことが多いかもしれないけど、解決できることもあるだろうから、月に1回ぐらいの意見交換会が開催できたら私としてはとても嬉しいので、実現できるように学生会として頑張って欲しいです。

田中・宮原・奥園　本日はお忙しい中、お話しができてとても感謝しています。学生会として１年間、頑張っていこうという気持ちが強くなったと思います。

シリーズ 卒業を控えて

卒業を控えた次の５年生の皆さんに、高専時代の思い出など、自由に語っていただきました。（H29.1.13）

5Mエリダ（マレーシア留学生、弓道部／茨城大学進学）
5E松田拓巳（高専祭パートリーダー、陸上部／東京ガス株式会社）
5I中尾七海（高専祭パートリーダー、ハンドボール部／三菱電機ビルテクノサービス株式会社）
5C本田時法（学生会会長、陸上部／有明高専専攻科進学）
5A北口修伍（高専祭実行委員長、ダンス愛好会／新菱冷熱工業株式会社）
司会：一般教育科　嘉藤直子

司会　高専生活の中で最も印象に残っていることを教えてください。

本田　1つにしぼるなら学生会長ですね。学生会は自分のためじゃなく、学生の皆さんのために頑張らなければなりません。自分の考えを押し通していくのではなく、周りのアイディアなどももらいながら、考えていけるようになったことが印象に残っています。

北口　5年生で高専祭実行委員長をさせていただいたことです。3年生の時には副実行委員長だったのですが、その時は、副実行委員長というより、先輩がしていることをひたすら見ておく感じでした。だから、いざ自分が実行委員長としてやろうとすると、ほとんど1からやる状態で、紆余曲折がありました。でも、最終的に、皆から楽しかったと言ってもらえる高専祭ができたのでよかったです。

A 北口君

中尾　私も一番印象に残っているのは、5年の高専祭ですね。毎年、情報って、情報棟だけ離れていて、なんか地味？！

本田　隔離棟！

中尾　そう、隔離棟でさびしいので、今年は思い切り盛大にしようということになりました。私は飾りつけのパートリーダーをしたんですけど、華やかにしようと思って、大掛かりなお城を作ったり、壁一面を花で埋め尽くしたりしました。いろいろなアイディアを出して、皆で作れて本当に楽しかったです。あと、中夜祭で1等賞が当たったことが一番の思い出です。

松田　自分も高専祭です。パートリーダーをしました。3年生の頃に先輩に前もって教えてもらっていたにもかかわらず、いざ5年になって自分でやるとなったら本当に難しかったです。結果的には、材料が足りないなどの不具合もあり、自分としてはやりきれた感は少なかったです。でも、先輩たちのすごさが改めてわかったし、皆をまとめる難しさも実感しました。そのできなかったことを後輩に伝えることが自分なりにできたので、よかったと思います。

エリダ　私が一番印象に残っていることは、先生や友達の優しさです。私はマレーシアで2年間、日本語での日常会話や日本のことを勉強してから来ました。でも、実際に日本に来てみると、カルチャーショックが大きかったし、勉強では専門用語が難しくて大変でした。そんな時、先生たちにいつも助けてもらいました。例えば、研修旅行の時、私は宗教が違うので、特別な料理を用意してくれたり、お祈りの場所や時間なども配慮してくださいました。部活やクラスの友達も、日本の文化をいろいろと教えてくれました。

司会　エリダさんは日本に来られてびっくりされたことがたくさんあったと思います。その中でも一番びっくりされたことは何でしたか？

エリダ　日本人の生活です。3年生の頃、体育の時の着替えの様子にびっくりしました。マレーシアでは、男性が女性の前で着替えることはありません。機械工学科が特に男性が多いからかもしれないけど、女性がいても皆平気で着替えていました。私は強烈なカルチャーショックを受けました。それだけでなく、3年の時はたくさんのカルチャーショックを受けました。高専祭の時、男性が女装していたのもびっくりしたし、寮では後輩たちが大きい声で挨拶したり、皆の前で自己紹介するときなどに大きな声で叫んだりすることにもびっくりしました。最初は、これが日本の文化かなと思っていました。

全員　（爆笑）有明高専の文化だよね！日本の文化ではない！

エリダ　カルチャーショックについては他にもたくさんあります。この話をすると1時間では足りないくらい（笑）。

司会　5年生は後輩を指導する立場でもあるわけですが、後輩の指導をして良かった点や難しかった点を教えてください。

本田　学生会長として1年間心がけていたのは、先生にも学生にも自分の弱みを握られないことです。下級生の頃は制服を着てこなくて先生たちに何回も怒られていたんですけど、学生会長になった頃には、「そういうしようもないことで皆の信頼を失ってしまう」ということを周りの人を見て理解していました。だから、信頼を失うようなことはしないで1年間過ごすようにすれば、自ずとついてくる後輩がいるし、また、その後輩を指導していけば、その後輩の同級生たちが自分についてきてくれる、それをつなげていくことによって、学校の1000人の学生を動かそうと考えていました。

C 本田君

北口　高専祭の時、下級生にこちらから一方的に指示してしまうと、下級生の自主性が身につかなくなるので、基本的には下級生やパートリーダーに自主的に考えてもらって提案をしてもらうようにしていました。その人たちがこちらの意図をくんでうまくやってくれる場合はいいんですけど、そういうのが苦手な人だとこちらの方針とは違う方向にいってしまうので、その調整が難しかったです。

松田　高専祭でパートリーダーをした時、皆をまとめるには責任感が大事だなと感じました。あと、同級生やパートの人たちをやる気にさせるのが難しかったです。高専祭前日は、皆、とてもやる気になってくれました。電気科はやればできるクラスです。

I 中尾さん

中尾　私もパートリーダーだったけど、自分の考えだけでなく、皆の意見を取り入れてやっていくことに気を付けました。自分のパートはうまくいっていたと思います。一方で、パート間の連絡・報告が全体的にうまくいかなかったので、その連携が難しかったです。

司会　高専5年間や3年間で自分が一番成長したと思うことを教えてください。

北口　中学校の頃から数学が苦手で、高専1年の時は授業についていくのに必死でした。でも、こつこつやっていくうちに、日に日に数学が楽しくなって、数学の勉強が苦にならなくなりました。今は、数学は「嫌い」から「好きではない」になりました。やらな

ければならないという環境になると、人って変われるんですね。

松田　自分も勉強のことです。1年生の前期中間試験で、ある科目のテストが20点だったんですよ。結構まずいじゃないですか。

本田　高専の洗礼を受けたね。一発目で。

松田　そう。正直言えば、中学校のテストって簡単だったので、

E 松田君

あまり勉強しなくても90点や100点が取れていました。そのノリで一番最初の試験を受けたんですよ。だけど、高専では通用しませんでした。そこで気持ちを切り替えました。勉強に対する欲が出ました。「今回できたな」ではなくて「確実にできるようになるまで勉強する」というのが高専5年間で一番身についたと思います。意識が変わってからは、悪い点数は一切取りませんでした。

本田　前の2人と同じで、中学から高専に入って努力することが増えましたね。僕は元々万物に対する差異があまりなくて、勉強もスポーツも何か特別に秀でている方ではありません。高専に入って、僕はそういう人間だなということに気づきました。高専はポテンシャル高い人が多いので。だから、その中で自分が生き残っていくためには、自分で努力してそのランクに上げるしかない、こつこつやるしかないなって思って5年間やってきました。まあ、何回か、僕より勉強してない人と成績が並んだ時には、腹立つなぁと思うこともありました。だけど、仕方ないな、これが自分なんだと考えました。あと、僕は「自分はやったらできる」というのを疑わなかったので、より頑張れたと思います。

中尾　高専では、先輩付き合いや先生付き合い、もっと言うと、人とのコミュニケーションの取り方を一番学びました。部活動に入っても、最初から5歳上の先輩と常に同じ空間にいるので、すごく大人の人たちと一緒にいるという感じでした。そこで、敬語の使い方や挨拶の大切さを学べたと思います。

エリダ　私の場合は、留学生なので、日本語がわかるようになったことが一番成長したところです。3年の頃は、方言とか若者の言葉とか全くわかりませんでした。また、機械の専門用語がわからず、専門用語を英語に訳して、それでもわからない時にはマレーシア語に訳して理解していたので大変でした。5年になった今では、方言も専門用語もだいたいわかるようになりました。友達の冗談もわかるようになりました。日本に来る前、マレーシアの日本語の先生から「自分が冗談を言って日本人の友達が笑ったら、日本語がうまいということ」と聞いていたのですが、今は、私が冗談を言っても友達が笑ってくれるので、日本語が上手になったと思います。

司会　後輩へのメッセージをお願いします。

北口　追認はない方がいいと思います。3、4、5年とかになってくると、もし追認が多ければ、落とした科目の勉強もしなければならないし、今の勉強もしなければならないから、人より何倍も苦労しなければならないし。

本田　追認は負の連鎖だよね。「追認落とす、成績が下がる、また追認受けなければならないけど今の学年の勉強もしなければならない、両方落とす」という無限スパイラルみたいな。

松田　特に、5年の今の時期に追認受けている人たちは、卒研しながら、追認、テスト、卒業論文も。本当に大変そうだよ。

本田　松田や僕は転科生なんですけど、ほとんどの人は1つの学科に5年間いるわけじゃないですか。だから、他の学科のつらさはわからないはず。でも、高専のほとんどの人って自分の学科が一番きついと思い込んでいるんですよね。もっというと、自分がきついという人が多い。僕はそれを聞くたびに、他学科の授業を受けたこともレポートを書いたこともないのによく言うなと思っていました。自分の学科が一番きついって何を根拠に言っているんだと。皆きついんだから、皆で頑張ろうと思ってほしいです。

松田　自分は、部活や応援団などで先輩とは仲良くさせてもらっていました。先輩と仲良くして一番良かったのは、たくさんの情報をもらえたことです。例えば、1年の時に、2年の先輩から微分積分の授業は大事だよと教えてもらい、自分も微積を頑張りました。また、5年の先輩からは就職活動や卒業研究の進め方などを聞いていたので、自分が5年生になったときに就職活動も卒業研究もスムーズにできました。だから、先輩に卒業前にいろいろと話を聞いておくのは大事だと思います。それと、専攻科の人はありがたい存在です。ぜひ、先輩たちに話を聞いて、将来について準備をしてほしいです。

M エリダさん

中尾　高専時代は長期休暇に思いっきり遊んでほしいです。社会人になったら、こんなに長い休みはとれないと思うし。

松田　僕も長期休暇には旅行に行ったり、本田と一緒に登山をしていました。だから、就職試験の時に「趣味はなんですか?」と聞かれて話しやすかったです。

中尾　そうだよね。長期休暇をぼさっと過ごすのはもったいない。

本田　将来に広がるものをやってほしいですね。

エリダ　後輩には、目標を立てて過ごしほしいです。留学生の場合、大学進学するには、勉強だけでなくお金のことも考えなければなりません。なぜなら、大学の受験料も引っ越しの費用も大学の学費なども、自分の貯金から全部出さなければならないからです。だから、どこの大学に進学するか早めに目標を立て、計画的に過ごすことが大事だと思います。日本人の後輩たちへのアドバイスも、目標を早めに定めた方がうまくいくということと、何かあったら先生に相談してほしいということです。先生たちは親身になって相談に乗ってくれます。

司会　最後に、自分の人生の目標や卒業後にやりたいことなど、これから先の話を聞かせてください。

司会：嘉藤

北口　いずれは海外で働いてみたいと思っています。今はグローバル社会なので、海外に行ったら自分の視野も広がると思うし。学生の頃に留学しておけばよかったと思っていたので、海外というのは目標でもあり、魅力を感じています。

本田　自分も海外で働いてみたいです。エリダも言ってたんですけど、海外に行くために何をしなければならないのか、今、目標を立てています。専攻科に進学するんですが、TOEICの点数が悪いので、この春休みにしっかり英語を勉強して、TOEICの点数を最低でも今の2倍ぐらい上げて、海外のインターンシップに行って、最終的に海外で働くという目標です。

松田　もう一回アメリカに行きたいです。中学2年の時に1か月間ホームステイに行ったけど、旅行というわけではありませんでした。今度は旅行に行きたいです。あと、日本の素晴らしい景色とかを見に行きたい。

中尾　自分のやりたいことを思いっきりして過ごしたいです。もうすぐ東京に行くんですけど、都会で楽しみたい。目標は毎日楽しく生きることです。

エリダ　大学に行って、新しい体験をたくさんしたいです。そして、マレーシアに帰ったら、日本の良いところ、例えば、仕事のやり方とか、時間を守るところなどを、まずは家族に伝えて実践し、その輪を広げていきたいです。

司会　皆さんのご活躍を期待しています。今日はありがとうございました。何か言い忘れたことはありませんか?

本田　あと2年いるので、よろしくお願いします。(笑)

シリーズ　人物・いま

退職教職員

平成29年3月をもって退職される4名の教職員に、次の3つの質問に答えていただきました。
Q1 高専で最も思い出に残ることは？　Q2 高専あるいは学生に望まれることは？　Q3 今後のことについて一言

人間・福祉工学系　教授
堀田 源治

A1 担任として始めて送り出した卒業生から涙声で「お父さん」と言われたことです。
A2 競争社会にあって常に変化を恐れない体質作りは組織・個人に共通した課題であると思います。
A3 来年度も引き続きお世話になります。何卒宜しく御願い申し上げます。

環境・エネルギー工学系　教授
川瀬 良一

A1 28年間も在籍すると、多くのことが思い出に残っていますが、中でも、2回のシンガポール引率です。1回目は本校初の4年生研修旅行でした。2回目はこちらも初の3月に実施しているミニ留学です。どちらも学生達が目を輝かせていたのを見れて嬉しかったです。
A2 学生時代に楽をすれば、将来、苦労します。学生時代にしっかり努力すれば、将来は楽しいことが多くあります。しっかり、学力、体力、精神力を鍛えて社会に出てください。それが良い思い出になると思います。
A3 29年度は再雇用で本校に在籍する予定です。自分の時間が増えると思いますので、ゴルフ、テニス、スキューバーダイビングおよびヨットなどの趣味や海外旅行を楽しもうを思っています。

環境・エネルギー工学系　准教授
森山 賀文

A1 部活動です。学生からたくさんの感動をもらいました。共に悔しい思いをし、辛い練習も真摯に取り組んだ分だけ、大きな感動となって返ってきました。その度に、（部活だけに限りませんが）学生たちから数多くのことを教わりました。
A2 挑戦し続けてください。ただし、与えられた時間は有限です。全てのことをできるわけではありません。優先順位を付け、ときには取捨選択（我慢）して、有意義な学生生活を送ってください。より一層の活躍を期待しています。
A3 熊本県立大学へ異動します。今後は研究を通じて、学生に寄り添っていければと考えています。来年度は前期のみ週1回だけですが、非常勤講師として有明高専に参ります。
　学生・現旧教職員の方々をはじめ、大牟田・荒尾の方々にも大変お世話になりました。12年間、ありがとうございました。

一般教育科　准教授
菱岡 憲司

A1 学生とのやりとり、これに尽きます。とくに担任として関わった学生との思い出は、人生の財産です。ときに2時間、3時間と話し込むこともありました。
あの一対一の人間同士のやりとりが、ぼくを「教師」に育ててくれたと思っています。
A2 すぐに汚れてしまうのはわかっていても、いまを快適に過ごすために掃除をします。いつか死ぬのはわかっていても、充実した一日を過ごすためにいまを生きます。結果を先読みせず、負けるとわかっている戦いに挑んでください。その過程に人生があります。
A3 山口県立大学で、専門である日本近世文学を講じます。後進に文学の魂を伝えたいと思います。皆さんも、いつもかたわらに文学を。

人事交流教員

今年度、人事交流教員として赴任された田中泰彦先生に1年間の感想を伺いました。

環境・エネルギー工学系　准教授
田中 泰彦

『同じ「高専」だけれども、それぞれ違う。しかし、違うけれども、やはり同じ「高専」である。』これが率直な感想です。両校で規則などの微妙な違いはありましたが、先生がたの教育・研究への情熱や苦労、さらに学生たちの将来への希望や不安など、普段交わされる会話の話題は両校とも不思議なくらい同じでした。ですので、有明らしい・佐世保らしい、それぞれの「高専生」が輩出されるのだなと実感しました。有明高専と佐世保高専を行ったり来たりする人事交流でしたが、さまざまな経験をさせていただきました。金子みすずの詩にある「みんなちがって、みんないい」ではありませんが、同じ高専だけれども、それぞれの高専の良さを向上させていけるように、今後も教育・研究活動で交流を続けていきたいと思っています。1年間お世話になった皆さまに、たくさんの感謝をいたします。ありがとうございました。

永年勤続表彰

永年勤続20年の3名の教職員の方に、思い出などをお聞きしました。
Q1 20年間の一番の思い出　Q2 20年前と今について　Q3 学生に一言

環境･エネルギー工学系　教授
田中 康徳

A1 フランスに在外研究に行かせていただきました。大学は英語で大丈夫でしたが、町は英語があまり通じず、買い物一つにも非常に苦労しましたがいい経験でした。
福岡から自動車通勤の際、高速道路の途中で結石を発症し、痛みをこらえて運転してきて、そのまま病院へ入院しました。先生方や学生さんにご心配いただきありがたかったです。
A2 ちょうど校舎が建て替えの時期で、就職当時は教室や実験室もだいぶ古くなっていました。今は建屋も設備も随分と充実しています。20年が経ち、昔の建屋をご存知なのも学科（コース）の中では川瀬先生と私だけになりました。それから、昔のほうが教員も学生ものんびりしていたと思います。
A3 勉強もそれ以外も、一生懸命にやりましょう。言われたからやる、仕方なくやる、では身につきません。また、学生の間にできる友達を大事にしましょう。日々成長し、将来活躍されることを期待しています。

一般教育科　教授
酒井　健

A1 平成14年にドイツのデュイスブルク大学に留学したことです。外国での長期滞在は初めてで貴重な経験でした。1年間だけでしたが、大学のスタッフや学生と一緒に充実した研究生活を送れただけでなく、雄大なドイツの自然や文化、人々の生活習慣や物の考え方に触れて、自分自身の視野を広くすることができました。
A2 有明高専に着任した平成8年からしばらくの間は(若手だったこともあり)、毎日のように教員室に学生が遊びに来てくれました。いろいろな話をしたり、悩み事を聞いたり、(何故か)卒研の相談にのったりすることもありました。また、部活動(ソフトテニス)でも学生とペアーを組んで試合をしたりして、本当に楽しい毎日でした。今は･･･　(-ω-) 静かな毎日です。
A3 今年は1年間、人事交流で久留米高専に行きます。15年ぶりに新しい環境で仕事ができることや久留米高専の先生方、学生との新しい出会いを楽しみにしています。皆さんも目を外に向けてどんどん飛び出して行きましょう！

教育研究技術支援センター
大木 泰仁

A1 最初の授業です。3年生の学生実験でしたが、少し緊張しながら実験室で待っていたら、部屋の外でうろうろする学生の姿…なぜ入って来ないのか尋ねたら、私を上級生と思ったらしく、遠慮して入って来られなかったとの事。色々な意味で衝撃的な仕事デビューでした。
A2 体重が増えた代わりに運動神経と免疫力が減りました. . . 冗談はさておき、一番の違いは安全衛生に関する意識の高さ、特に薬品の管理体制だと思います。今では考えられない事ですが、20年前は毒劇物薬品の定期検査どころか、専用の薬品庫すらありませんでした。
A3 ジャネーの法則というのがあり、詳しい内容は割愛しますが、平均寿命まで生きると仮定して人生の体感時間の中間点は20歳前後だという説があります。確かに、この20年はそれまでの20年よりかなり短く感じました。この学校で過ごす人生の前半戦を大切に、後で後悔しないよう充実したものにしてください。

留学生

卒業を控えた留学生２名に、思い出などを伺いました。

５M　エリダ
（シティ　エリダ　ビンティ　チェ　スハイミ）

私はマレーシアで高校を卒業した後、更に２年間一生懸命に日本語の勉強を頑張りました。そのおかげで、日本に来ることができて、有明高専の機械工学科３年生に編入学できました。正直に言えば、３年間この学校で学び、一番印象残っていることは先生方の優しさだと思います。なぜならば、高専生活は特に日本語ばかりの言語を使って、私にとって本当に大変でした。もちろん、授業だけでなく、他の事も先生方（特に担任の先生方）から色々な指導をいただき助かりました。本当に心から感謝しています。
そして、5Mの同級生達はみんながいつも授業の事や色々な面白い日本文化を教えてくれて本当にありがたいです。男子ばかりのクラスなので、いっぱい面白い事をやって、私は毎日が楽しいです。また、弓道部のメンバーと一緒に練習できたり、試合に出たり、食事会などもしたり、ずっとその過ごした時間を思い出しています。３年間は書き尽くせないほど、たくさん楽しいことが多くて、一方でもちろんつらいこともありました。先生方と友達のおかげで、私は高専から卒業できます。次の進路については、茨城大学の機械工学科に編入します。

５A　ピセット
（ソク　ピセット）

一年間東京の日本語学校で学び、卒業後やっと有明高専に編入学することが決まりました。高専に初めて来た時に日本語はまだ上手く話せなかったので、とても不安でした。しかし、先生方や先輩たちなどが支えてくれたからこそ私はここまでたどり着けました。授業が始まった頃は、講義内容が聞き取れなくて板書の内容も全然理解できなくて大変でした。そこで、毎日分からない言葉を調べて授業の内容を考えて理解しようと頑張りました。
私は勉強だけではなく、色々なことをたくさん習いました。一番大切なのは日本の文化でした。それから早くも３年が経ち、もうすぐこの学校とお別れをする時が来ました。この３年間、一番印象に残ったのは卒業研究でした。３年生の時にRC造に興味を持ち、４年生の後期から上原先生の研究室に入ることになりました。５年生から作業をしながら実験の内容を勉強しました。卒研の実験は大変でしたが、色々な作業の経験ができ、良かったと思います。
さらに、担当の先生と先輩たちのおかげで作業を進めることができました。卒研だけではなく、研究室でRC造の関係で勉強して身につけた知識などたくさんの経験をしました。
来年度から宇都宮大学に編入学し、この学校で学んだことを活かして頑張りたいと思います。今までいつも応援してくださった先生方やクラスメートに、それからここで私と出会った方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。短い間でしたが、３年間お世話になりました。

アラカルト

シンガポール・ポリテクニック校学生来校

国際交流室長　山口 英一

12月11日（日）～20日（火）にかけて、本校が協定を結んでいるシンガポール・ポリテクニック（SP）から学生10名と引率1名が来日しました。寮への滞在中に多くの寮生と交流したほか、学内ではさまざまな授業、3年生のホームルーム、部活動体験、寮生との交流会などに参加しました。学外では太宰府天満宮、石炭産業科学館、大牟田動物園、グリーンランド、熊本城、加藤神社などの見学や日本文化の体験をしました。

また、週末には本校学生の家で2泊3日のホームステイを体験しました。19日（月）の朝、図書館棟1Fロビーで本校学生とさよなら会を行った後、昼からは福岡市内で着物着付けの体験や市内散策をし、翌20日（火）帰国の途につきました。

今回の交流や体験がSPの皆さんにとって良い思い出になると同時に、本校学生にとっても大変よい刺激となって今後の学生生活にも大きな影響を与えてくれることを願っています。

第48回定期演奏会の無事終演のご報告

吹奏楽部部長 4C 木上 絵里菜

私たち吹奏楽部は平成29年1月21日（土）に大牟田文化会館大ホールにて、第48回定期演奏会を無事開催することができました。多くのお客様にご来場いただき、改めて感謝の意を申し上げます。

今年度の定期演奏会では、今までにない「学年演奏」という新しい試みに挑戦しました。それは、今年度の吹奏楽部には5年生がおらず、例年行なっている5年生演奏ができなかったためです。5年生がいない上に新しい試みに挑むということでかなりの不安がありましたが、学年演奏のおかげで盛況に至ることができました。このこともあり、今年度は私たち吹奏楽部にとって挑戦の年となりました。また、今回の定期演奏会を通して部員のキズナがより一層深まったように感じます。人数が少ないからこそ一体感が生まれたのだと思います。

まだまだ未熟な点はございますが、これからも部員一丸となってお客様に楽しさを届けられるような演奏を目指して頑張りますので、是非応援を宜しくお願い致します。

※表紙にも定期演奏会の写真を掲載しています。

創造工学科・新カリキュラムの授業

平成28年度から創設された「創造工学科」のカリキュラムでは1年前期に「工学基礎Ⅰ」「製図」、1年後期に「工学基礎Ⅱ」「創造工学実験実習」等の専門科目が配置されています。

2年後期に6コースからのコース選択をするにあたっての判断材料とするために各コースの概要を「工学基礎Ⅱ」や「創造工学実験実習」において学びました。

また、12月13日（火）のLHRの時間には各コースの「卒業研究」の見学も行われました。

工学基礎Ⅱ

創造工学実験実習

卒業研究の見学

※表紙にも授業風景の写真を掲載しています。

1年生進路セミナー　12月12日(月)～19日(月)
4年生進路セミナー　1月13日(金)

大坪 正彦氏(本校 キャリアコンサルタント)

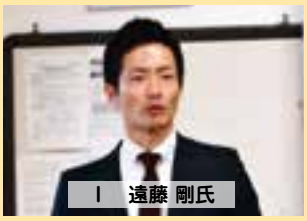
1年生に対しては進路設計に関する動機付け、勉学意欲の向上、職業意識の涵養、4年生に対しては就業意識の向上を目的として開催されました。

3年生進路セミナー　11月8日(火)・17日(木)

進路設計の動機付けと職業意識の向上を目的として、各学科の卒業生による講演が開催されました。

M　原田 義史氏

E　赤尾 正光氏


I　遠藤 剛氏

C　中島 康宏氏

A　重松 徹氏

冬季のグラウンド部活動環境がおおきく改善！

ラグビー部OB・OG会から、平成26年度にグラウンド照明設備、平成28年度には管理棟屋上照明設備を寄附していただきました。ラグビー部をはじめ、陸上部、サッカー部、ハンドボール部などのグラウンドを使う部は、日が早く沈む冬場の時期でも、比較的長い時間活動に取り組むことができるようになりました。ラグビー部OB・OG会の皆様、ありがとうございました。

学校からは、平成28年11月9日（水）に校長室にてラグビー部OB・OG会への感謝状が贈呈されました。

※表紙にグラウンドの夜間照明の様子を撮った写真を掲載しています。

平成28年度パテントコンテスト高専部門で優秀賞を受賞!

自動車工学研究部のメンバーがパテントコンテスト高専部門で見事、優秀賞を受賞しました。
☆発明の名称　自動二輪用フリクションフリーホイールハブ
☆メンバーと主な役割
鶴　　皓貴君　(2-3)　代表、開発・製作とりまとめ
横山　　昴　君　(1-3)　製作実験まとめ、申請書起草担当
尾方　健祐君　(2-2)　製作担当
武藤　正明君　(4M)　製作担当(※校長室での報告会は欠席)

専攻科ポスターセッション　1月12日(木)・13日(金)

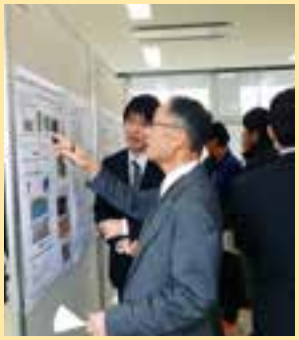
副専攻科長 石川 洋平

専攻科の重要な行事である「特別研究発表会(ポスターセッション)」が1月12日(木)・13日(金)の両日に開催されました。

本行事は、専攻科2年生32名の特別研究内容を各学生がポスターにまとめて掲示・説明することにより学内外に発表し、その成果を広く知っていただくことを目的とするものです。

今回も、合同教育南棟合同講義室を会場として開催しました。また、5年目となるポスター賞を決めるためのアンケートを実施しました。

誠実に研究活動に取り組んできた学生諸君の労をねぎらうとともに、ご来場いただいた方々およびアンケートにご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。



シリーズ 研究室訪問

聞き手：Eコース 森山 賀文

今回は、メカニクスコースの坂本武司先生と一般教育科の酒井健先生の研究室を訪ね、お話をうかがいました。

坂本 武司 研究室（メカニクスコース）

・学生当時と今の有明高専を比べて、変わったところ変わっていないところを教えてください。

私が学生だったのは約20年前ですが、その頃は混合学級もなく、同じ学科の先輩は今よりも迫力があったと思います。用事があって上級生の教室に行くときには緊張しました。今は下級生がそれほどプレッシャーを感じているようには見えません。そこが変わったと感じるところです。逆に変わらないと感じるところは、個性的な学生が多いことです。当時からキャラクターが濃い学生がたくさんいました。

・現在の研究テーマとその概要を教えてください。

ダイヤモンドなどの超硬脆材料の研磨加工に関する研究を主としています。ダイヤモンドは物質中でもっとも硬い素材ですが、実は究極の半導体材料として期待されており、表面を滑らかに研磨することができれば、超高性能なコンピューターや超高効率な電車を実現することができます。

・研究者になろうと思ったきっかけを教えてください。

高専の学生のときには、職業にするかは別として、自分で何かを研究する人になりたいと思っていました。それは、恩師の先生の研究に対する姿勢が尊敬できるものだったからだと思います。

・研究で心がけていることをお聞かせください。

行き詰まったら、基礎を徹底的に見直すということです。問題が生じて、小手先の改善をしても、結局同じ問題が研究の障害となります。基礎的な技術の積み重ねは、先進的な試みをする上でも決して無駄にならないと信じています。

・新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことはありますか？

日本刀を作刀する技術を応用した刃物で惑星の層状サンプルが取得できないかを検討しています。数年前、惑星探査機ハヤブサの帰還が話題になりました。日本が持つ伝統技術が最先端の開発に利用できるのではないかと期待しています。

・最後に、学生へのアドバイスをお願いします。

将来の目標設定はなるべく早い時期にした方が、準備に余裕ができるということです。準備をする余裕がないと成功する可能性も高くなりませんし、自分が望む進路に行けない場合もあります。学生には自分が納得した進路へ進んで欲しいと願っています。

酒井 健 研究室（一般教育科）

・4月から人事交流で久留米高専に行かれますね。どのようなことを見てこられる予定ですか？

同じ高専でも有明高専と久留米高専で違うところがたくさんあると思います。その中でも、特に有明高専での物理教育や共同研究・地域連携を活性化させるために役に立ちそうなところを見聞きし、新しい知見をたくさん得たいと思っています。

・現在の研究テーマとその概要を教えてください。

『Y系高温超伝導体の劣化メカニズムの解明および再生技術の確立』です。毎年4～5回程度、大牟田・荒尾地区の小学校で『液体窒素で遊んでみよう！』というテーマで出前授業を10年以上実施していますが、そこで使用してきた超伝導試料のうち、経年劣化や化学変化が原因でマイスナー効果などの超伝導特性を示さなくなった試料がたくさんあります。この点に着目し、試料の劣化メカニズムを解明するとともに、超伝導特性を復活させ、再利用できるようにするまでの技術開発を行うことを現在の研究テーマの1つにしています。この研究は環境保全や資源の有効活用の点からも大変重要であると考えています。

・研究者になろうと思ったきっかけを教えてください。

授業中に何回か話をしたことがありますが、私が高校1年生の時に物理の授業で習った落下運動で、物体の運動状態（位置・速度・加速度など）が時間の関数として簡単な数式で表され、解を求めることができることに純粋に感動し、それがきっかけで物理に興味を持ち、より深く学んでみたいと思ったのがきっかけです。

・研究で心がけていることをお聞かせください。

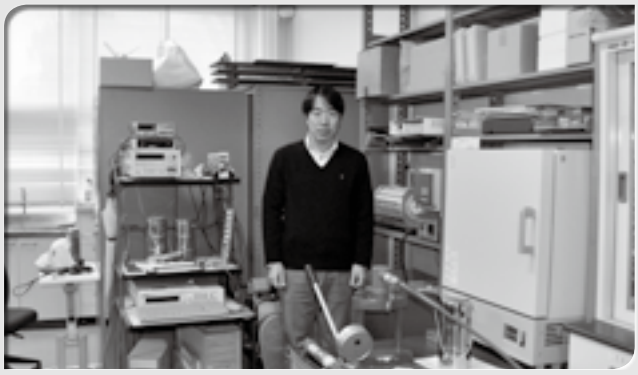
私は実験系の研究者です。私が学生の頃は幾度となく実験で失敗を経験しました。しかし、成功するまで決してあきらめませんでした。この失敗経験を活かして、日頃から何かに挑戦するときは『失敗を恐れず、あきらめず、不屈の精神で遂行すればいつしか必ず成功する。何とかなるさ！』という楽観的な気持ちを大切にしています。

・新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことはありますか？

この人事交流をきっかけに、久留米高専の先生と研究面で連携し、共同研究を始められたらと期待しています。

・最後に、学生へのアドバイスをお願いいたします。

私の座右の銘は『夢は決して自分にウソをつかない！』です。高専での日々の努力は、いつか自分の夢を叶える原動力になるはずです。1日1日を大切に精進しましょう！



シリーズ 企業訪問 ―卒業生を訪ねて―

株式会社 日新建設工業所

福岡県大牟田市西宮浦町11番地6

聞き手：Aコース 松岡 高弘

今回の企業訪問では、大牟田市にある（株）日新建設工業所で女性現場監督としてご活躍の曽我部寛子さん（平成13年3月卒業　A科29期）にお話をうかがいました（ご主人も同じ会社にお勤めになっているので、会社では旧姓を用いてご主人との区別をされているそうです）。なお、昭和57年３月本校建築学科を卒業された宮本浩明さんは、取材当日現場での仕事のためお会いすることはできませんでした。

松岡：最初に、仕事について教えてください。

曽我部：建物の設計・見積・施工まで、建物をつくるという仕事に関してほとんどのことに携わっています。大牟田市や荒尾市を中心として仕事をしています。建物の種類は、個人の住宅はもちろんのこと、大牟田市市営住宅、工場、病院、学校、店舗、事務所等、様々な建築の新築や増築を行っています。学生の皆さんが知っている大牟田市立病院は、清水建設とのＪＶ（ジョイントベンチャー）で施工を行いました。

松岡：入社されて16年になりますが、これまでに関わった仕事の中で印象が強く残っていることはありますか。

曽我部：いろいろありますが、まず、思い出すことは、三池炭鉱の繁栄の基を築いた團琢磨の銅像が立つ台座の施工に関わったことです。旧三井港倶楽部にそれはありますが、微妙な曲線を設計図どおりに納めることに大変苦労しました。普段、建物の施工に関わっているので、モニュメントの仕事は小さいけれどもディテールにこだわらなければならなかったので大変でしたが、楽しく仕事ができました。

ＲＣ造３階建の片廊下型の市営住宅の現場は、建物が横に長かったため、各所を確認するための移動距離が長く、きつかったことを覚えています。個人の住宅では建具を既製品でなく特注品を要望されることがあり、お客様の要望に添えるように設計に苦慮したことを思い出します。

松岡：曽我部さんは北九州市に近い岡垣町のご出身ですが、大牟田にあるこの会社に就職しようと思ったのは特別な理由がありましたか。

曽我部：私が育った町には海と山があり、私が生まれる前には炭鉱で栄えていたそうです。大牟田は故郷に似ていてとても愛着がありました。高専生だった当時、あまり注目されていなかった宮原坑に一人で見学に行ったりしていました。５年生の時に就職を担当してくださった先生から、やりがいのある仕事ができる会社として紹介されて、入社することができ、現在に至っています。

また、会社は戦後間もない頃に大牟田で建設業を始めていますが、会社名の「日新」は戦後の日本を新しくしていくという気持ちが込められていることを知って、大牟田に貢献していきたいと思って、就職しました。

松岡：有明高専の卒業生として仕事を進めていく上でプラスになったことはありますか。

曽我部：女性の現場係員の数は現在では増えていると思いますが、私が就職したその頃は、とても少なく、現場にいる作業員の人にどうして現場監督になったのか、とよく質問されました。その時に、有明高専の建築学科を卒業して現場監督をしていますと、説明すると、納得してくれました。

また、高専の授業では建築に関係する基礎的なことをたくさん学ぶことができたので、仕事を進めていく上で大変助かっています。

学生の頃に設計した作品を今も大事に手元においていますが、それを見ると、自分なりに頑張っていたことを感じることがあります。が、学生の頃、もっと勉強しとけば良かったと、痛感する場面も多々あります。

松岡：仕事をする上で心掛けていることはありますか。

曽我部：仕事を依頼していただいた施主の方の気持ちになって良い仕事ができるように注意をしています。また、良い仕事をするにはミスがあってはならないし、作業中の落としがあってはならないので、確認作業を何度も行っています。しつこいくらい確認をすることで、現場に関わっている者同士の間に意思疎通がうまくできると考えています。

松岡：在校生へのメッセージをお願いします。

曽我部：社会人になると休みが少なくなりますが、学生の時には土曜と日曜の２日間の休みがあります。その休みを有意義に使って欲しいと思います。部活を含め、学生の時にしかできないことに熱中したり、興味があることを探求したり、いろいろなことにチャレンジして欲しいと思います。

また、高専での友人は私の宝物になっていて、現在でもよく会っています。在校生の皆さんも友人をたくさんつくってください。

松岡：平成28年の年末のご多忙なときにお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

会社玄関前で　宮本さん（左）と曽我部さん（右）

ロボコン地区大会を振り返って

Aチーム　3M 平井 隆行

今回の競技内容は、箱を台の上に積み上げ、積み上げた高さを競う競技でした。Aチームは、箱を持ち上げる「モツゴロウ」、箱を運搬する「ツムゴロウ」、対岸から他のロボットを竿で引っ張る「ツリゴロウ」の3台のロボット「ミツゴロウ」を開発し、競技に挑みました。初戦は沖縄高専に勝利しましたが、2回戦で都城高専に敗れてしまいました。僕は初めてロボット（ツムゴロウ）の全体設計を任され、最初はうれしく思っていましたが、完成時期が予定より大幅に遅れてしまい、自分の実力不足を痛感しました。チームとしては、「今後期待できるチーム」として安川電機賞をいただきました。来年度はロボコン30周年、九州沖縄地区大会が地元開催となります。来年こそは会場を沸かすような奇想天外なロボットを製作し、全国大会優勝を目指します。

Bチーム　4I 井塚 智也

Bチームは、箱を大きいアームで挟んで積む『サラ万田一』というロボットと、そのロボットを高台のある島まで運ぶ橋の役割をする『渡レール』というロボットで出場しました。

ロボット製作は最初のアイデアや計画通りにはいかず、回路が上手く動かず作り直し、機構の改良を重ねるなど、試行錯誤を繰り返しました。時には先生方や先輩方の力もお借りし、何とかロボットを完成させることができました。

本番では、トラブルによりロボットの機構の一つが壊れてしまい、ロボットのパフォーマンスを発揮することなく1回戦で負けてしまいました。

正直、悔しい気持ちでいっぱいですが、この悔しさを忘れずに、次はより良いロボットを作れるよう頑張りたいです。

応援してくださった方々、支えてくださった先生や先輩方、部員の皆さん、ありがとうございました。

第27回全国高専プロコン三重大会に出場して

4I 山田 達郎

昨年10月に、三重県伊勢市にて全国高等専門学校第27回プログラミングコンテストの本選が開催され、有明高専からは自由部門と競技部門の2チームが出場しました。私は自由部門で参加しました。

ここ数年で競技部門以外に参加した先輩方がほとんどいない中での参加であり、大きな不安がありました。しかも、私たちのチームは3年生以下で構成され、開発は困難を強いられました。しかし、先生方の心強いバックアップとチームの仲間のおかげで、なんとかシステムを完成させることができました。

本選当日は学生チーム以外にも数々の企業が展示を行い、様々なシステムに触れることができました。中には私たちと同じデバイスを使って全く違う発想のものを完成させたチームもあり、大変な驚きを感じました。

今回、高専プロコンに参加したことによって、プログラミング、プレゼンテーション、資料作成など実に多くのスキルを身に付けることができました。今回の経験をこれからの高専生活および部活動に活かしていきたいです。

前列右から2番目が筆者

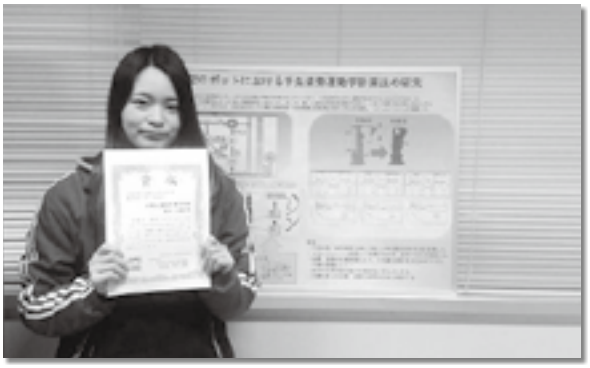
精密工学会九州支部第17回学生研究発表会で優秀ポスター発表賞を受賞！

5M 重松 春麗

平成28年12月11日（日）に北九州高専で行われた精密工学会九州支部第17回学生研究発表会において、優秀ポスター発表賞を受賞しました。

私たちの研究のテーマはマルチエージェントシステム（MAS）という計算方法を使ったロボットの手先姿勢を運動学計算するというものです。これまでの研究で得られた手先位置の運動学計算と組み合わせて位置と姿勢の両方をシミュレーションロボットに適応させ、MASの実用性を確認することを目的としています。

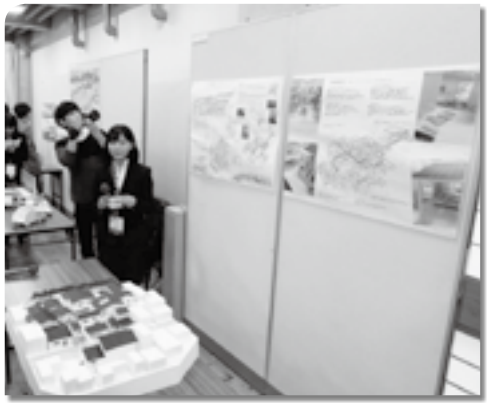
今回初めて学会に参加させて頂きました。参加者のほとんどが大学生で不安でしたが、このような賞を受賞することができ、たいへん光栄に思います。この経験を糧にこれからも研究に励んで行きたいです。



※本校初の快挙です！

全国高専デザコン空間デザイン部門で最優秀賞を受賞

6A 牛島 美夏



私はデザコン2016 in Kochiの空間デザイン部門に出場しました。課題は「あたりまえをReスタート」というもので、地域のなかに潜在しているあたりまえを発見し、それを自由な発想と豊かなデザインによって再スタートさせてくださいというものでした。

私の作品は「さるきどころ」と題し、路地と高齢者住居に着目したものです。その路地をさるけば高齢者と地域が繋がっていくような空間、地域に寄りそうような高齢者の暮らしの場を提案しました。今後、私自身もいつかは高齢者になるので、どの様な老後の生活を送りたいかを想像し、つくった作品でした。

高知県ではかつおのたたきが美味しく、予選審査で全国上位10作品に選ばれたことに喜びを覚えました。また、本選では、ポスターセッションとプレゼンテーションの結果、幸運にも最優秀賞を頂き、思っていた以上にこの上なく嬉しかったので、デザコンに挑戦して良かったなと思いました。

ご指導くださった先生方、力を貸してくださった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

全国高専デザコン（構造デザイン部門）に参加して

5A 宮本 浩幸

12月に高知県で行われた全国高専デザコンに参加させていただきました。私は昨年度に引き続きデザコンの活動に取り組み、校内予選を通過した本年度は本選に出場させていただきました。

課題は、昨年とほぼ同じ「鋼線でブリッジを製作し、その耐荷性能や軽さ、デザインを競う」というものでした。3年生から5年生まで学年を超えたチームをつくり、夏休み前から試作を行ってきました。昨年に比べ技術的に大きくレベルアップし、試作を重ねる度に、より軽くて丈夫なブリッジへと洗練させていくことができました。

本選での成績は振るいませんでしたが、審査員の方には高評価をいただき、良いものが作れたかなと思っています。学年を超えたチームで色々な意見をまとめながら一つのものを作り上げていくという過程もまた新鮮で、良い経験になりました。そしてまた下級生がその経験を受け継いで、来年もっと良い作品を作ってくれることを楽しみにしています。

チームメンバーと（前列右側が筆者）

冬季球技大会

体育局長 4M 恒吉 いづみ

12月9日に行われた冬季球技大会。前年まで3年連続の雨天でしたが、今年は天気も良く晴天での競技が行われました。

競技ではサッカー、ハンド、バスケ、卓球が開催され、どの競技も大変盛り上がりました。

今年度は学生会の会長選挙が早く終わり、4年の私たちが上に立ち新学生会として初めて運営しました。3年ぶりの晴天で、サッカーやハンドなど運営を経験していない競技もあり、しっかり運営できるか不安でした。しかし新メンバーの皆さんも責任を持って運営をしていただいたおかげでサッカーもハンドも何事もなく無事に運営を終えることができました。

急な変更や会場の移動など皆さんに迷惑かけましたが、皆さんの協力のおかげで今年の球技大会もスムーズに運営ができました。次の球技大会もよりよくできるよう頑張っていきますので皆さんの協力をお願いします！

最優秀クラス	3M	
優秀クラス	5A、2−5	
	優勝	MVP
サッカー	4E	坂梨　直人
ハンドボール	3M	髙峰　将真
男子バスケット	4M	中垣　拓望
女子バスケット	5A	牛嶋　新菜
卓球	2−5	泉　蓮樹

※表紙にも冬季球技大会の写真を掲載しています。

新学生会

学生会長 4C 田中 玲偉

このたび、学生会会長になりました4Cの田中玲偉です。

私は有明高専に入学して4年間学生会の運営に関わってきました。この経験を生かしてこれから1年間活動をしていきます。新しい学生会は役員が91人と人数が増えたので新しい意見やアイディアを取り入れ、新たな行事を増やしていきたいと思います。学生皆さんのアイディアも募集しています！

そして、今年の目玉となる活動としては４年ぶりとなる「アイスの販売」を復活させることです！しかし、これを実現するには学生のみなさんの協力が必要不可欠ですので協力のほどよろしくお願いします。

私は、話すことが好きなので学生のみなさんと少しでも会話ができたらいいなと思います。恋愛相談など大募集中です！

今年の学生会も明るく元気に活動していきます！1年間よろしくお願いします。

平成29年度　学生会新役員

会　長	4C	田中 玲偉						
副会長	4M	奥園 善仁	4C	宮原 萌衣				
書　記	4M	鬼丸　将	3A	江島 早英	3E	片桐 南海子		
会　計	4A	中川 智哉	3M	居石 桃夜	3C	平野 理歩		
	2-1	永田　翔	2-1	播磨 竜太	2-2	石川 佳奈		
	1-2	大村 龍平						
渉　外	4I	堤　愛海	4M	吉松 大貴	4C	松本 典子		
	3C	坂井 李帆	3C	渡辺 香織	2-3	手嶋 裕二		
	2-3	德永　蓮	1-3	福田 一心	1-4	権藤 香乃		
	1-5	浦部 莉奈	1-5	古賀 柾考	1-5	本田　南		
整　美	4A	城戸 晋之介	4M	山本 隆椰	4I	有働 将弥		
	3M	秋吉 魁人	3M	今上 賢勇	3M	大山 達也		
	3M	栗原 昌裕	3M	近藤 昭斗	3E	浅川 芳名		
	3E	梅﨑 千晴	3E	松尾 旬祐	3E	松田 寧々		
	3C	葛城 みずき	2-1	神﨑 太一郎	2-4	柿本 征志		
	1-1	葛城 光佑	1-1	藤丸 大也	1-2	官澤 政輝		
	1-4	湯本 夏由						
体　育	3M	江藤 康平	4M	古財 圭祐	4M	恒吉 いづみ		
	4M	戸上 貴博	3M	阿部 聡馬	3M	菰田 泰成		
	3M	髙峰 将真	3M	畑島 昂希	3C	山口 杏珠		
	2-1	高島 輝光	2-3	前間 陽平	2-3	羽立 京加		
	2-3	石井 友美華	2-5	永野 英一	2-5	松本　将		
	1-2	藤原　翔	1-3	池尻 俊也	1-4	黒川 怜愛		
	1-4	寺田 有希	1-5	西村 美歩				
文　化	4M	川口 拓真	4A	伊藤 大貴	3M	川上 広貴		
	3A	鏡池 佳英	3A	永瀬　楓	2-3	國生 有未		
	1-4	岡本 彩花	1-4	南里 彩花				
放　送	4I	芳仲　正	4E	柿原　奨	3M	塩山 優作		
	3C	吉行　隆	2-4	田代 更紗	2-5	田島 やよい		
	1-2	清水 日佳梨	1-2	津崎 七海				
報　道	3A	水元 ひろえ	2-3	大山 優衣	3M	澤田 光平		
	3M	菅　峻矢	3M	中島 光晟	3E	手嶋 諒治		
	3I	山田 達郎	2-2	川本 景嵯	2-4	安部 あすか		
	2-5	林　拓海	1-2	原田　平	1-3	李　基全		

※表紙に学生会新役員の写真を掲載しています。

学生会役員研修

放送局長 4I 芳仲 正

12月16日(金)に、新学生会執行部役員10名と旧学生会長副会長3名と学生主事室3名の先生方により学生会役員研修が行われ、来年度の方針について話し合われました。議題は主に挨拶運動、体育祭、アイスの販売、掃除についてでした。

挨拶運動は昨年度も議題として挙がっていましたが、昨年度はその必要性について話し合われたのに対して、今回は学生会役員の人数が昨年度の倍近くと大幅に増えたためどうやって担当をまわすかに重点が置かれました。話し合いの結果、一日ごとに旧役員１人と新役員3人で担当することになりました。しかし、それでは挨拶運動の目的であった役員の顔を覚えてもらうという効果が薄まるのではないかという声も上がったため、今後また話し合いが行われるかもしれません。

体育祭については今年度から１年生が創造工学科として１学科にまとめられて、従来のような運営が困難になったため今後どう運営していくか話し合われました。学生主事室から4つの案が提示され、1月の初めに話し合うことになりました。

アイスの販売については何年か前には修己館に置かれていたが、食べ歩きやポイ捨てが目立ったため廃止されていました。さきほど挙げた2つの問題点をどう解決するかについて話し合われましたが、現実的な案は出てこず、今後も話し合っていくことになりました。

掃除については、今までは各クラスの整備委員が担当していた掃除の点検を学生会役員で担当できないかというものでした。また、今年度の高専祭前に学校全体を掃除した経験を活かし、これを定期的に行えないか検討されました。

その他の議題として、ペットボトルキャップの回収や学生便覧の内容の見直し、新しいイベントなどについても話し合われた後、新規役員の局振り分けを決めました。

来年度の学生会役員は90名を越え、例年の倍近い人数となりました。人数が増えることは単純に良い面ばかりではなく悪い面もあると思うので、そこを如何にしてカバーしつつ学生会をよりよい方向に進ませるか期待が寄せられます。

岱明寮だより

寮務主事室

寮生球技大会

副寮長 4M 光延 聖太

10月23日（日）に寮生球技大会を開催しました。今回初の試みで進行などが遅れたりもしましたが、寮生の皆さんのおかげで無事球技大会を終えることができました。

また、普段関わりのない人などとも親睦深められるよい機会になったのではないかと思います。

結果は以下の通りとなりました。

総合優勝　　：Dチーム
バレーボール優勝　：Cチーム
バスケットボール優勝　：Dチーム
卓球優勝　　：Dチーム

バスケットボール

バレーボール

卓球

佐世保高専西雲寮の視察

寮長 4E 畏川 健汰

1月28日、29日に佐世保高専西雲寮を視察してきました。佐世保高専では有明高専と違い1、2年生は全寮制であり、寮での生活指導などは学校の雰囲気を決める大事なものだと感じました。そのため西雲寮の寮生会はとても活発であり、全寮生が掃除や挨拶を当たり前のようにやっていて見習うべきことがたくさんありました。視察で学んだことを自分だけではなく、寮全体にも知ってもらえるようにしていきたいです。

意見交換会

点呼の様子

佐世保高専の寮生会役員と

予餞会（5年寮生送別会）

寮生会報道局 4M 眞砂 和

有明高専の岱明寮では1月29日に卒寮生の送別会として予餞会を第一体育館で行いました。予餞会では、卒寮生に記念品の贈呈をしたあとに代表者にスピーチをしてもらいました。

寮の一年生たちは男子には一発芸、女子には劇をしてもらい予餞会を盛り上げてくれました。

また、イベント局から今年は予餞会の最後に今までにはなかった抽選会を行い景品としUSB、お菓子、ヘッドホンなどが送られました。

有明高専岱明寮を卒寮した寮生の皆さんは寮での思い出を忘れないように今後とも頑張ってください。

卒寮生代表挨拶

1年生による余興

抽選会

トピックス

有明次世代科学クラブ成果発表会

人間・福祉工学系 坪根 弘明

理数分野に関して高い意欲・能力を有する生徒の才能を伸ばし、高い課題探求・解決能力を備えた科学者・技術者の育成を目的に、有明高専では平成24年度より「有明次世代科学クラブ」を立ち上げ、様々な研究活動を行っています。今年度は8名の新メンバーを加えた合計13名の中学生とともに、地域の諸問題の解決の一環として、「オリーブの葉の保存法および葉採取器の開発」というテーマで活動を行いました。平成28年12月26日（月）には、本校にて、平成28年度の成果発表会を開催し、多くの方々に研究内容の実演やポスター説明、口頭発表による成果報告を行いました。受講生が堂々と発表していたのがとても印象的でした。最後に、ご来場いただいた方々や指導を担当してくれた専攻科生に厚くお礼を申し上げます。

装置の実演による説明

発表会後の記念撮影

寄附講座「人工知能・ビジネス講座（木村情報技術）」の開設について

総務課 平島 洋一

有明高専と木村情報技術株式会社（代表取締役：木村隆夫）は、この度、寄附講座「人工知能・ビジネス講座（木村情報技術）」の設置について合意しました。

寄附講座とは、設置及び運営に必要な経費を民間企業等からの寄附により賄われる教育組織を言います。

本講座は、有明高専学生に対して、AI（人工知能）とIoT（Internet of Things）の基礎及び応用に関する知識・技術を教授するとともに、高専と企業等の間での共同研究や新産業創出（ビジネス）につながる活動を促進し、人工知能を活用できる高度な技術者の育成と地域への人材輩出に貢献することを目的としています。

高専の長い歴史の中で寄附講座が設置されるのは、本校が日本で5番目であり、九州で初となる大変画期的なことです。

記者発表

第11回エレクトロニクス・ものづくり体験教室（楽しいラジオ作り　–FMたんとを聴いてみよう–）

人間・福祉工学系 石川 洋平

平成28年12月10日（土）に情報システムコースの恒例行事である第11回エレクトロニクス・ものづくり体験教室を開催しました。

今年は11年目ということで、気持ちも新たにFMラジオ作成講座（FMたんと開局記念！）に変更しました！79名の参加で、ラジオ生放送特番でも取り上げていただきました。本科5年生と専攻科生が自主的に計画から当日の運営まで責任をもってやってくれました。次年度はもっと多くの方にラジオに触れてもらえるようにスポンサーを募集します。

本体験教室は、昨年に引き続き電子情報通信学会九州支部との共催と大牟田市教育委員会の後援、本年度から新たに、荒尾市教育委員会、大牟田商工会議所、荒尾商工会議所、大牟田文化会館、FMたんとの後援を頂き、地域と共に開催する形となっています。

参加した皆さんと

体験教室

編集後記

広報アシスタント 保田 裕

今年度も残すところあと僅かとなりましたが、皆さんにとってはどのような年度だったでしょうか。

社会人1年目の私にとっては、初めて経験する仕事ばかりで、ちゃんとできているのか？これでいいのか？これから先、うまくやっていけるのか？とあれこれ悩みや不安の多い年度でした。

そんな私ですが、恩師の言葉である「ライバルは昨日の自分」を胸に、毎日少しずつでも成長できるよう心がけています。そして、これから先もその姿勢を大切にしようと思っています。

学生の皆さんも今、そしてこれから先、不安や悩みを抱き、壁にぶつかることもあると思いますが、「千里の道も一歩から」ですので、昨日よりも今日、今日よりも明日、日々自己練磨に努めてみてください。

有明高専だより 第151号
平成29年2月17日
編集：有明高専広報室
発行：有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8775（学生課）
http://www.ariake-nct.ac.jp/

花咲く技術を
-Here are Lights-